

平成 26 年度第 2 回 IODP 部会執行部会議事録

日時:2014 年 5 月 19 日(月)14:00~17:30

場所:JAMSTEC 東京事務所 大会議室

出席者:

執行部:石渡 明(部会長・東北大学) 西 弘嗣(部会長補佐・東北大学)
木村純一(JAMSTEC) 斎藤実篤(JAMSTEC) 坂口有人(山口大学) 鈴木庸平(東京大学)
中村恭之(JAMSTEC) 平野直人(東北大学) 道林克禎(静岡大学) 村山雅史(高知大学)
横山祐典(東京大学大気海洋研究所)

オブザーバー:

木下 肇(J-DESC 会長), 安間 了(筑波大学・JRFB 委員)
佐伯健太郎(文部科学省), 倉本真一(CDEX/JAMSTEC), 川村善久(JAMSTEC)
品川牧詩(JAMSTEC)
事務局:梅津慶太 双木真理子(JAMSTEC)

欠席者:池原 研(産業技術総合研究所) 池原 実(高知大学) 木村 学(東京大学・CIB 議長)
中西正男(千葉大学) 山田泰広(京都大学)

議事次第

1. IODP の動向
 - ・JRFB 報告
 - ・航海関連報告.....資料 1-1,1-2, 2-1, 2-2
 - ・SEP 委員ローテーション.....資料 3
 - ・IODP Forum について.....資料 4
2. J-DESC 関連
 - ・JR 号見学会準備状況報告.....資料 5-1, 5-2, 5-3
 - ・今年度総会のレビュー.....資料 6-1, 6-2
 - ・J-DESC 将来検討委員会
 - ・掘削航海専門部会の活用拡大と委員ローテーション.....資料 7
3. その他
 - ・JST Sakura Science Plan (SSP) 2014 について.....資料 8
 - ・その他報告事項など
 - ・次回執行部会開催日程確認

配布資料

資料 1-1	文科省からの指導文書(日本海呼称問題 について再発防止の注意喚起)	資料 5-1	JR 号見学会実施概要(案)
資料 1-2	プロポーザル 605-Add3(抜粋)	資料 5-2	JR 号見学会報道関係者向け案内文
資料 2-1	IODP 掘削航海スケジュール	資料 5-3	JR 号見学会関連費用見積り
資料 2-2	スケジュールリングされたプロポーザル	資料 6-1	平成 26 年度 J-DESC 総会議事録(案)
資料 3	SEP 委員ローテーション(案)	資料 6-2	平成 26 年度予算 J-DESC 予算
資料 4	IODP Forum draft agenda v.1	資料 7	掘削航海専門部会委員ローテーション
		資料 8	Sakura Science Plan (SSP) 2014 概要

1. IODP の動向

・JRFB 報告

JRFB 安間委員より報告がなされた。

- ・ 4/23～24 に Oceanleadership にて開催された。
- ・ プロポーザルがたまっているため、今後どのように消化していくかについて議論がなされた。今後は Proponent Response Letter (PRL)をもとに議論を進める。
- ・ SEP に関連して、ブラジルからのプロポーザルがたくさん出てきたことが目立っていた。
- ・ SEP のやり方、IO も Watchdog に入れるべきであるとし、次回 SEP 会議からは各プロポーザルに IO からの Watchdog がつくことになった。
- ・ 日米欧で Sampling policy データベースが個別なので、Curatorial Advisory Board でデータベースの統合について検討することになった。
- ・ 2018 年後半以降は西太平洋、南太平洋、南氷洋の掘削を行うことになる。
- ・ Indian Ridge Moho の 1st Phase は掘削するが 2nd Phase は、(しばらく JR がインド洋に来ないので)できない可能性が高い。
- ・ Preliminary report が出ていると学術雑誌への掲載の障壁になることが指摘され、各雑誌編集社に対してこの点を考慮してもらうように連絡することになっている。
- ・ Fast track review のシステムは残すが、これを適用するプロポーザルの基準をしっかりとる。
- ・ JRFB 委員の構成員として米国のメンバーを 1 名増やす。これにより、サイエンティストのメンバーは議長を含め 6 名となる。次回以降 Rick Murry が議長を務める。

・航海関連報告 資料 1-1,1-2, 2-1, 2-2

事務局より資料 2-1, 2-2 に基づき報告がなされた。

- ・ JRFB にて現在募集中のインド洋航海のさらに後の航海のスケジュールが決定された。
- ・ JR の航海は、Exp. 356 Indonesian Throughflow の後は FY16(2015 年 10 月～)に Exp. 359 Maldives Monsoon, Exp. 360 Indian Ridge Moho, Exp. 361 South African Climate, Exp. 362 Sumatra Seismic Zone, FY17(2016 年 10 月～)に Exp. 363 Western Pacific Warm Pool
- ・ MSP は来年 10 月に Exp. 357 Atlantis Massif を実施する予定。
- ・ 「ちきゅう」の今年度の航海は 7 月 10 日、11 日に開催される Chikyu IODP Board (CIB)会議で決定される見込み。非公式には NanTroSEIZE のオブザバトリーを設置する航海が実施される予定。
- ・ Exp. 353 Indian Monsoon Rainfall は、4 名が Invite された。Exp. 354 Bengal Fan には現時点で 1 名が Invite されている。
- ・ 先日まで追加募集していた Exp. 354 Bengal Fan には 1 名のシニア研究者 (Paleomagnetist)からの応募があった。
- ・ 現在募集中の航海は Exp. 355 Arabian Sea Monsoon (CPP:インド)と Exp. 356 Indonesian Throughflow の 2 航海で、双方とも応募者無し。募集〆切は延長し 6/2。USIO へのリスト提出〆切は Exp. 355 が 7/1, Exp. 356 は 8/1 となっており、さらに延長することも可能。

次回以降、執行部会において乗船者リストを配付資料とすることが事務局に要請された。

・SEP 委員ローテーション 資料 3

事務局より標記の件について説明がなされた。

- ・ 6 月の SEP 会議の横山委員の代理は、高知大の山本裕二氏にお願いしている(執行部・幹事会ともに承認済み)。
- ・ 高野委員の後任に諸野氏、横山委員の後任に山本正伸氏を推薦することが前回の執行部会において承認済み。ただし、山本氏は Exp. 353 に乗船のため、来年 1 月の SEP 会議には出席できない見込みであり、代理委員の選出が必要となる。

・IODP Forum について 資料 4

事務局より標記の件について説明がなされた。

- ・ 5/27, 28 に釜山にて初めての IODP Forum 会議が開催される。
- ・ 日本からは、石渡部会長、井龍陸上掘削部会長の他、Jim Mori 氏が出席する。そのほか CIB 議長として木村学氏も出席予定。

- ・特に PMO に割り当てられている報告の機会等はないが、何かあれば出席者から発言する。
- ・次期 IODP Forum 議長については、IWG+の議論では、アメリカの次は日本からという話があったが、今もそのつもりかどうかはわからない。日本から議長を輩出するのであれば、Forum 会議の場でその旨を伝えるべき。

2. J-DESC 関連

・JR 号見学会準備状況報告 資料 5-1, 5-2, 5-3

事務局より標記の件について説明がなされた。

- ・5/31 に JR 号の見学会を予定している。午前はメディア向け、午後は研究者・学生向け。
- ・今回は J-DESC が主体として実施するものであり、メディアへの案内文も JAMSTEC と J-DESC が共同で案内を出す方向で調整している。
- ・研究者学生向けの見学会は定員 45 名で参加者を募集していたところ、締め切り前に定員に達したため、定員を 60 名に増やして追加募集を行っている。
- ・当日は執行部として池原研さんにもお手伝いいただけることになっている。
- ・場所は当初大黒ふ頭の予定だったが、その後の調整により本牧ふ頭となった。これにより、安全確保のため、現地集合が困難であることから、チャーターバスにて送迎を行うことが必要になった。手続きが間に合わなため、JAMSTEC からの支出は難しい。当日、20 名近い JAMSTEC 職員が対応に当たったため、J-DESC にバスチャーター費の負担をお願いしたい。また、参加者募集を行っていることから、参加者の保険についても J-DESC の予算から支出していただきたい。

合意事項(140531-01) : JR 号見学会のバスチャーター費を陸上掘削部会執行部も了承したうえで共通経費の広報活動費で支払う。参加者の保険についても同様とする。

・今年度総会のレビュー 資料 6-1, 6-2

事務局より標記の件について説明がなされた。

- ・総会議事録(案)を作成したので、確認の後、修正等があれば連絡してほしい。

・J-DESC 将来検討委員会

事務局より標記の件について説明がなされた。

- ・総会において将来検討委員会の提言が承認された。これに伴い、執行部では提言を実行していく必要がある。
- ・「IODP・陸上掘削関連の両研究者が集まって人材育成に関して議論を行い、実務を行う組織を立ち上げる」との提言があり、これに対応すべく、新たに委員会を立ち上げる必要がある。
- ・将来検討委員会の中では将来検討委員会を継続する形が最も合理的であるとの結論であった。
- ・一方で、将来検討委員会は昨年度活発な議論を行い、アンケートや提言もしっかりまとめていただいたので、まずは一区切りということで、将来検討委員会としては任務完了ということではないか。

合意事項(140531-02) : IODP 部会としては、将来検討委員会の委員を母体として、別の名称の委員会「活動強化委員会(仮)」を陸上掘削部会と共に新たに立ち上げる。

・掘削航海専門部会の活用拡大と委員ローテーション 資料 7

事務局より標記の件について説明がなされた。

- ・昨年度いっぱい、掘削航海専門部会委員全員の任期が満了となった。これに伴い、専門部会長には山田泰広氏の就任が総会において承認されたが、委員についてはまだ決まっていない。
- ・現在募集中の航海への応募者分については、これまでの委員にて評価を行っていただく予定であるため、すぐに動き出すものではないものの、早めに委員を決めたい。
- ・これまで掘削航海専門部会の委員の役割は応募者の評価とアフタークルーズワーク申請の審査に特化していた。この専門部会をもう少し活用すれば、より乗船応募者を増やすことにつながるのではないかと事務局としては考えている。
- ・具体的には、航海の募集を行う際に専門部会の委員がその航海のポイントについて解説を書き、宣伝に使う。そのため、この専門部会の委員には PEP 委員など、スケジュールリングされているプロポーザルを知っている人がふさわしいのではないか。

合意事項(140531-03):掘削航海専門部会はあくまで乗船者を評価することに専念し、航海の広報はこの専門部会とは別に行う。

実行項目(140531-04):事務局から掘削航海専門部会の規定を執行部に送る。それに基づき、執行部は候補者名を事務局に伝える。

3. その他

・JST Sakura Science Plan (SSP) 2014 について 資料 8

標記の件についてオブザーバーの品川氏より説明がなされた。

- ・ JST が行っているキャパシティビルディングのためのファンディング「Sakura Science Plan」の募集が行われており、JAMSTEC の Moe 氏が申請 (Course A として 10 日間のカリキュラムを 11 月に実施) を準備している。
- ・ Moe 氏の申請はミャンマーから人を呼び、JAMSTEC などで講義や施設見学を行うもので、このカリキュラムの中で、掘削科学を話題にそれを推進する体制 (J-DESC) についての紹介をしていただきたいと考えている。

合意事項(140531-06): Sakura Science Plan の Moe 氏提案について J-DESC として引き続き検討する。

・その他報告事項など

石渡部会長より日本海呼称問題について説明がなされた。

- ・ Exp. 346 Asian Monsoon の Preliminary report が 3 月頃に発表されたが、「Sea of Japan」と「East Sea」が併記されていた。これについて外務省から指摘があり、文科省木村企画官より今後このようなことはないようとの注意喚起の文書が先週金曜日に J-DESC に届いた。
- ・ Prospectus には「Japan Sea」のみの表記であったが、Preliminary report では「Sea of Japan/East Sea」との表記になっていた。
- ・ 掘削サイト UB-1 は韓国の排他的経済水域 (EEZ) になっており、このサイトをもって East Sea と表記している可能性がある。
- ・ 日本海に領海を持つ国の領海や EEZ 以外の部分 (日本の領海及び EEZ と公海) については日本海と呼ぶことが外務省のホームページには書いてある。
- ・ 今後、外交問題になった場合に、この併記の仕方では、日米が認めたことになってしまう懸念がある。このような問題がある場合にはあらかじめ行政担当者に相談してほしいというのが文科省からのコメント。

実行項目(140531-07):文案を作成し、幹事に諮った後、J-DESC 会員に対して注意喚起を促す文書を送る (今週中、実行者:石渡部会長・事務局)。また、USIO に対しては問い合わせないし抗議文を送るべく文科省と調整する。

・次回執行部会開催日程確認

6/25(水)の午後開催